



## 各教科の取り組み状況

教科ごとのオリエンテーションも終わり、本格的に授業がスタートしました。当然ユニットプランナーやルーブリックを使用する授業は全員初めてのことなので、不安もある中新しいことを計画し、実行にうつすことのできる瓜中教職員を頼もしく思います。

また生徒も概要が掴めず(そもそも掴みやすいものではない)戸惑っている部分はありましたが、学習内容はさほど変わらないということを知って安心し、一生懸命取り組んでいます。何より、授業中、真剣な眼差しを感じます。IB の難しさを感じている中、私たちに信じてついてきてくれる瓜中生に感謝です。

## 全体懇談会（ワークショップ）

4月15日（月）の授業参観後、全体懇談会の場をお借りしてコーディネーターの穂山から IB 教育、IB の評価についての説明を行い、ワークショップ～評価・ルーブリックについて知ろう～を開きました。ダジャレ作成ゲームをグループで行い、これが総括的評価課題に取り組む状況であった際には、あらかじめルールを確認しておかなければ平等な取り組みにならないことを実感していただきました。たくさんの保護者の皆様に参加していただき、ありがとうございました。アンケートに記入していただいた質問やご意見は、この通信を通してフィードバックさせていただきます。



↓ワークショップの様子

先生たちにも一緒に考えてもらいました。



(IB について気になること、ご質問など) → 穂山より

「総括的評価課題の成果物は具体的にどういったものですか？」

→ 成果物は生徒が作成したレポートや、プレゼンテーション資料などを指します。わかりやすい言葉を使うと「提出物」に近いものです。

「小学校での勉強の進め方と変わる為、教師との対話が重要になってくるかと感じました。どれ程、対話の回数が持てるのか気になりました。」

→ IB に取り組んでいくことで、教員と生徒との対話は授業の中で自然と増えていきます。初めは自分から質問しづらい生徒もいるかと思しますので、教員側からの授業中の声かけを大切にしていきます。

「IB での枠組みでの学びと評価は、鹿高でも継続されるのか」

→ 現在、IB に取り組んでいるのは中学校のみとなります。町としては、将来的に高校に IB を導入することも考えているようですので、中学校での実践を高校とも共有していきたいと思えます。

「正直、気になることがわかりません。。1 回聞いただけではちんぷんかんぷんな内容を、おとしこみ、子どもたちに指導してくださる先生がすごいなーと感謝いたしました。」

「わからないことだらけなので、勉強します。」

「カタカナの意味が定着していないのでむずかしく感じました」

「何が分からないのか分からないので3年間で少しずつ慣れていきたいです」

「横文字が難しく日本語的に言うと・・・があると良いなと」

→ 今回の説明では、IB 用語のカタカナをあえて使用しました。難しく感じさせて申し訳なかったですが、このカタカナに慣れていただくことが認定を受ける上で必要になります。今後の IB 通信でも随時用語の説明を記載していきますので、少しずつ理解していただきますようよろしくお願いいたします。

「国際バカロレア、とても良いと思えます！私は子どもが小さい頃からとても興味があり、いくつかの説明会にも足を運んでいました。でも、IB 校に通おうとすると、私立だったり一条校ではなかったりして敷居が高いイメージでした。まさか留学で来ている中学が IB 候補校になるとは、何てラッキーなんだ!! と、とても嬉しく思っています。先生方の研修 etc 大変と思えますが応援しています！保護者向けの説明会、あるといいなと思っていたので今日は貴重な機会でした。ありがとうございます。通信を読めていない保護者さんもおられると思うので、略語の説明 (IB、MYP、JNC など) 含めて IB とは何ぞや。メリットは？様々な教育方法がある中でなぜ IB？などのお話もあると良かったかなと思えます。」

→ 今回は IB 教育の概要ととくに評価の部分を重点的にお話させていただきました。次回以降のお話の中ではメリットや「なぜ今 IB か」等についても触れさせていただければと思います。略語の説明に関しても今後の IB 通信に一覧表等を作成して、少しでも IB の用語がみなさんに浸透していただけるよう取り組んで参ります。

「紙面だけでは、まだまだ頭に入ってこないのもあるので、懇談会などでまた時間つくって頂き話をきかせて頂ければと思います。」

→ 保護者向け IB 説明会を企画できればと考えています。ご参加お待ちしております。

「IBによる評価が高校受験にどのように関わるのか？（内申という意味で）」

→現在、中学校段階（MYP）の評価が高校受験に関わる仕組みはございません。大学入試の時には高校（DP）の成績を利用して国内外の大学に進学することができます。

「わからないことがわからないんじゃないかと。。。本人たちが理解しやすいような説明をお願いします。」

→保護者の方への説明の機会は少ないため、たくさんの用語を一気に話してしまいましたが、生徒には、1つ1つ、ゆっくり時間をかけて説明していきます。

（ワークショップに参加してみたのご感想）＊抜粋

「ルールに沿ってグループのメンバーとコミュニケーションをとって制限時間内に目標を達成するという内容がつまっていていいと思いました。こういう取り組みを生徒たちが経験しながら学ぶのは楽しそうです。」

「しっかり自分の意見や疑問を積極的に発言できないとおいてかれる感じがするなと思いました。発言することが苦手な子には少々大変になるかもしれないけど、自分の意見や想いを周りの人に伝える練習になりとても良いと感じました。わからないこともあったので、もう少しわしく体験したかったです。」

「わかったような、よく理解できなかったような、これが教科になった際に、子どもが勉学として理解できるか不安です。」

「説明だけでは難しく、実際にワークショップで体験することで少しだけわかりました。これから子どもと一緒に学んでいきたいと思います。求めているものが高い分、低く感じてしまい、子どもたちの感じ方が心配ではありますが、将来、これからの社会に向けてIB評価は大切だと感じました。」

「先生方の力量が問われるなあ（大変だなあ）と感じました。特に評価の仕方が難しいと思いました。がんばって下さい！」

「子どもたちが行っていることの難しさを感じました。分からない単語が多く、理解が追いつきませんが、少しずつ理解を深められたらと思います。」

「内容が難しかったです。横文字が出てくると頭に入らないです。グループに分かれてやる活動は楽しかったです。子どもたちにはたくさん行って考える力をつけてほしいと思いました。」

「評価する側の質の担保が必要だと思いました。」

→評価の質につきましては①コーディネーター（穠山）が各教科担当と一緒に評価を行うこと。

②評価したものを別の教員の目でもう一度確認する作業を行うこと。によって担保されると考えております。この点に関しましても改善の余地がありますので、より良い評価ができるよう取り組んで参ります。

## 先生たちの学び（教科ワークショップ）

4月26日～28日の3日間、IB機構で開催されるワークショップにオンラインで4名の先生が参加します。これから候補校となる学校の先生、同じ候補校としてスタートを切っている他の学校の先生、認定校に転勤してきたばかりの先生、全国の様々な境遇の先生と交流しながらワークショップを受けます。有意義な時間になることと思いますので、今後の授業改善に向けて頑張ってもらいたいです。また、8月には、仙台や埼玉で穠山を含め4名の先生が対面式のワークショップを受講予定です。